

障害者歯科学

年次	学期	学則科目責任者
4年次	前学期	野本 たかと（障害者歯科学）

学修目標 (GIO) と単位数	<ul style="list-style-type: none"> ・単位数：2単位 ・学習目標 (GIO)：社会的環境に直結する「障害」の概念は、時の流れに伴い変化し多種多様化している。医療の目覚ましい進歩によって、何らかの配慮が必要な障害者の数は年々増加傾向にあり、基本的人権の保護や医療経済の配慮などから地域での包括的なケアが推進されてきている。さらに全身の健康が口腔機能と深い関係にあることが広く認識されるようになり、歯科医師の地域医療における役割は極めて重要となっている。しかしながら、「障害」の背景には医・歯・薬学だけでなく、社会、福祉、政策、経済的背景から心理学、工学、リハビリテーション学といった幅広い分野が存在する。多種多様化している障害者への安全で適切な歯科医療の提供は、こうした日々変化する内容が網羅されたいうえで施行されるべきであるため、幅広い基本的知識と遭遇する多様な問題に対する解決能力を修得する。
担当教員	野本 たかと、伊藤 政之、梅澤 幸司、三田村 佐智代、田中 陽子、遠藤 眞美
教科書	スペシャルニーズデンティストリー障害者歯科第2版 日本障害者歯科学会編集 医歯薬出版株式会社
参考図書	スペシャルニーズデンティストリー障害者歯科 日本障害者歯科学会編集 医歯薬出版株式会社 障害者歯科ガイドブック 森崎市治郎、緒方克也、向井美恵 編者 医歯薬出版 歯学生のための摂食・嚥下リハビリテーション学 向井美恵 山田好秋 編集 医歯薬出版株式会社
評価方法 (EV)	授業時間内に行う2回の平常試験(合計で100%)によって評価点とする。 平常試験はそれぞれの授業担当者の担当時間に比例した配分である。 2回の平常試験を総合した結果に応じて追再試験を行う。 追再試験の日程は平常試験2の終了後と次の授業開始前までの期間とし、該当者と日程を掲示板にて提示する。 授業時間の1/5以上を欠席した場合、成績評価は0～60点とする。 また、再試験の受験資格は与えない。
学生へのメッセージ オフィスアワー	障害者歯科学は幅広い知識を必要とされるため、授業だけでは理解が難しい場合があります。下記オフィスアワーに、いつでも研究室に来てください。 オフィスアワー；9：00～19：00

日付	授業項目	授業内容等	担当教員
2017/04/10 (月) 1時限 09:00～10:30	障害の概念と実態 およびノーマライゼーション	<p>【授業の一般目標】 ノーマライゼーションの理念に基づいた障害者歯科医療の意義を理解するために、社会的背景に即した「障害の概念」を理解し、日本における障害者の実態とノーマライゼーションについての基本的知識を修得する。</p> <p>【行動目標 (SBOs)】 1. 障害の概念を説明できる。 2. 国際障害分類、国際生活機能分類について説明できる。 3. 障害者基本法における障害者について説明できる。 4. 障害の認定と障害者に関する人口動態について説明できる。 5. ノーマライゼーションの概念について説明できる。 6. バリアフリーの意味を説明できる。</p> <p>【準備学修項目と準備学修時間】 ・準備学修項目： 歯科医療においてスペシャルニーズが存在することをを知る。 スペシャルニーズデンティストリー障害者歯科第2版 (医歯薬出版) P. 2-16, 24, 25を熟読する。 ・準備学修時間：30分</p> <p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 無し</p> <p>【学修方略 (LS)】 講義</p> <p>【場所 (教室/実習室)】 302教室</p> <p>【国家試験出題基準 (主)】 歯科医学総論 総論Ⅰ 保健医療論 1 健康・疾病・障害の概念 オ 障害の概念と対応</p> <p>【国家試験出題基準 (副)】 必修の基本的事項 2 社会と歯科医療 ア 患者・障害者のもつ心理・社会的問題 a 疾病・障害の概念・構造 (社会的関わり) b QOL <生活の質、quality of life> c リハビリテーションの理念 d ノーマライゼーション、バリアフリー f 国際生活機能分類<ICF>、国際障害分類<ICIDH> 歯科医学総論 総論Ⅱ 健康管理・増進と予防 8 障害者保健福祉 ア 現状、動向</p>	野本 たかと

日付	授業項目	授業内容等	担当教員
2017/04/10 (月) 1時限 09:00～10:30	障害の概念と実態 およびノーマライ ゼーション	9 人口統計と保健統計 ア 人口統計 【コアカリキュラム】 B 社会と歯学 B-2 健康と社会、環境 B-2-2) 保健・医療・福祉制度 *⑥障害者のおかれた社会環境を説明できる。 *⑦ノーマライゼーションの考え方を説明できる。	野本 たかと
2017/04/17 (月) 1時限 09:00～10:30	具体的な障害の概 要と口腔の特徴そ の1 (主に発達期)	【授業の一般目標】 ライフステージと障害の発生についての知識を修得する。 胎生期から発達期における障害についての基本的知識を修得する。 それぞれの障害に見られる口腔の形態および機能の特徴と口腔疾患についての 知識を修得する。 【行動目標 (SBOs)】 1. ライフステージと発生する障害との関係性について説明できる。 2. 知的障害の概要と口腔の特徴について説明できる。 3. 法律でいう発達障害の概要と口腔の特徴について説明できる。 4. 発達期における肢体不自由の原因となる身体障害の概要と口腔の特徴につ いて説明できる。 5. 発達期の障害者の合併症として多いてんかんについての概要と口腔の特徴に ついて説明できる。 6. 発達期の障害者の合併症に多い先天性心疾患の概要と歯科治療上の配慮につ いて説明できる。 【準備学修項目と準備学修時間】 ・準備学修項目： 障害者基本法に定められた障害者とは何かを説明できる。 スペシャルニーズデンティストリー第2版 (医歯薬出版) P.44-71, 89-91, 93-105, 163-168を熟読する。 ・準備学修時間：30分 【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 無し 【学修方略 (LS)】 講義 【場所 (教室/実習室)】 302教室 【国家試験出題基準 (主)】 歯科医学総論 総論Ⅷ 診察 3 障害者への対応 イ 障害の分類 【国家試験出題基準 (副)】 必修の基本的事項 14 主要な疾患と障害の病因・病態 ア 疾病の概念 b 先天異常、発育異常 15 治療の基礎・基本手技 ホ 患者管理の基本 b 全身管理に留意すべき疾患・対象 (気管支炎、気管支喘息、肺炎、慢性 閉塞性肺疾患 <COPD>、心筋梗塞、狭心症、高血圧症、心不全、心内 膜炎、脳出血、脳梗塞、胃潰瘍、十二指腸潰瘍、急性・慢性肝炎、肝硬変、胃食 道逆流症 <GERD>、腎炎、慢性・急性腎不全、貧血、急性白血病、出血 性素因、血友病、von Willebrand 病、糖尿病、骨粗鬆症、甲 状腺機能亢進症、甲状腺機能低下症、副腎機能亢進症、副腎機能低下症、膠原 病、後天性免疫不全症候群 <AIDS>、認知症、統合失調症、うつ病、双 極性障害、てんかん、Alzheimer 病、Parkinson 病、ア ルコール・薬物依存症、悪性腫瘍、周術期、妊婦、小児、高齢者、免疫不全、 臓器移植患者、菌交代現象<菌交代症> 歯科医学総論 総論Ⅰ 保健医療論 1 健康・疾病・障害の概念 オ 障害の概念と対応 総論Ⅵ 病因、病態 1 病因論 ア 染色体・遺伝子・発生の異常 イ 環境と疾患 【コアカリキュラム】 B 社会と歯学 B-1 健康の概念 *③疾病の概念、種類および予防を概説できる。 E 臨床歯学教育 E-4 歯科医療の展開 E-4-4) 障害者の歯科治療 *①障害者の身体的、精神的および心理的特徴を説明できる。 E-4-6) 歯科医師に必要な医学的知識 *②主要な医科疾患の症候を説明できる。 *⑤小児の代表的な疾患を説明できる。	遠藤 眞美
2017/04/24 (月) 1時限 09:00～10:30	具体的な障害の概 要と口腔の特徴そ の2 (主に中途障 害)	【授業の一般目標】 感覚器障害、音声言語障害、精神障害および中途障害についての基本的な医学 的・歯学的知識と歯科診療上の配慮についての知識を修得する。 【行動目標 (SBOs)】 1. 先天および後天性の感覚器障害の概要と口腔の特徴について説明できる。 2. 音声言語障害の概要と口腔の特徴について説明できる。 3. 精神障害の概要と口腔の特徴について説明できる。	遠藤 眞美

日付	授業項目	授業内容等	担当教員
2017/04/24 (月) 1時限 09:00～10:30	具体的な障害の概要と口腔の特徴その2 (主に中途障害)	<p>4. 中途障害における主な神経・運動障害の概要と口腔の特徴について説明できる。</p> <p>【準備学修項目と準備学修時間】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・準備学修項目： ライフステージにおける障害の発生について説明できる。 スペシャルニーズデンティストリー第2版 (医歯薬出版) P.71-81, 91-93, 106-119, 102-126, 147-156, 159-162を熟読する。 ・準備学修時間：30分 <p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 無し</p> <p>【学修方略 (LS)】 講義</p> <p>【場所 (教室/実習室)】 302教室</p> <p>【国家試験出題基準 (主)】 歯科医学総論 総論Ⅷ 診察 6 全身疾患を有する者への対応 ア 留意すべき疾患</p> <p>【国家試験出題基準 (副)】 歯科医学総論 総論Ⅵ 病因、病態 6 感染症、アレルギー、免疫疾患 カ 自己免疫疾患 総論Ⅶ 主要症候 1 全身的症候 キ 心理、精神機能 ク 神経 (知覚障害と運動障害を含む)</p> <p>歯科医学各論 各論Ⅳ 顎・口腔領域の疾患 14 顎関節疾患 ク リウマチ性顎関節炎 17 全身管理に留意すべき全身疾患・状態 オ 神経・運動器疾患 カ 精神・心身医学的疾患 各論Ⅵ 高齢者の歯科診療 10 神経疾患 キ 味覚異常</p> <p>【コアカリキュラム】 E 臨床歯学教育 E-2 口唇・口腔・頭蓋・顎顔面領域の常態と疾患 E-2-4) 口唇・口腔・顎顔面領域の疾患 E-2-4) - (10) 口唇・口腔・顎顔面領域の機能障害 *③言語障害を概説できる。 *④味覚障害を概説できる。 E-4 歯科医療の展開 E-4-4) 障害者の歯科治療 *①障害者の身体的、精神的および心理的特徴を説明できる。 ⑤障害者に対する基本的な対応ができる。 E-4-6) 歯科医師に必要な医学的知識 *②主要な医科疾患の症候を説明できる。</p>	遠藤 眞美
2017/05/01 (月) 1時限 09:00～10:30	具体的な障害の概要と口腔の特徴その3 (主に難病および要介護者)	<p>【授業の一般目標】 多種多様化する障害者への適切な歯科医療提供のために、特に難病および要介護となるリスクの高い有病高齢者を中心に社会的背景を理解し、原因疾患に関する概要と口腔の特徴についての知識を修得する。</p> <p>【行動目標 (SBOs)】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 難病の概要と口腔の特徴について説明できる。 2. 要介護中途障害者の原因疾患と人口動態について説明できる。 3. 要介護者のおかれた社会的環境について説明できる。 4. 社会福祉からみた要介護者について説明できる。 5. 医療経済と要介護中途障害者における口腔管理の重要性について説明できる。 6. 要介護の原因となる循環器、呼吸器疾患ならびに代謝性疾患と歯科との関連性について説明できる。 <p>【準備学修項目と準備学修時間】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・準備学修項目： 日本における障害者の人口動態と社会的環境を説明できる。 スペシャルニーズデンティストリー第2版 (医歯薬出版) P.81-89, 156-159, 163-168, 200-205を熟読する。 ・準備学修時間：30分 <p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 無し</p> <p>【学修方略 (LS)】 講義</p> <p>【場所 (教室/実習室)】 302教室</p> <p>【国家試験出題基準 (主)】 必修の基本的事項 2 社会と歯科医療 ウ 保健・医療・福祉・介護の制度 f 保健・医療・福祉・介護の各制度と職種</p>	梅澤 幸司

日付	授業項目	授業内容等	担当教員
2017/05/01 (月) 1時限 09:00～10:30	具体的な障害の概要と口腔の特徴その3 (主に難病および要介護者)	<p>【国家試験出題基準 (副)】 必修の基本的事項 1 5 治療の基礎・基本手技 ホ 患者管理の基本 b 全身管理に留意すべき疾患・対象 (気管支炎、気管支喘息、肺炎、慢性閉塞性肺疾患 <COPD>、心筋梗塞、狭心症、高血圧症、心不全、心内膜炎、脳出血、脳梗塞、胃潰瘍、十二指腸潰瘍、急性・慢性肝炎、肝硬変、胃食道逆流症 <GERD>、腎炎、慢性・急性腎不全、貧血、急性白血病、出血性素因、血友病、von Willebrand 病、糖尿病、骨粗鬆症、甲状腺機能亢進症、甲状腺機能低下症、副腎機能亢進症、副腎機能低下症、膠原病、後天性免疫不全症候群 <AIDS>、認知症、統合失調症、うつ病、双極性障害、てんかん、Alzheimer 病、Parkinson 病、アルコール・薬物依存症、悪性腫瘍、周術期、妊婦、小児、高齢者、免疫不全、臓器移植患者、菌交代現象<菌交代症> 歯科医学総論 総論II 健康管理・増進と予防 6 高齢者保健 ア 現状、動向 イ 高齢者の特性 ウ QOL <quality of life>、日常生活動作 <ADL> エ 要介護高齢者の歯科保健・医療 歯科医学各論 各論VI 高齢者の歯科診療 1 3 管理に留意すべき全身疾患 ア 循環器疾患 ウ 呼吸器疾患 エ 腎臓疾患 オ 精神・心身医学的疾患 キ 要介護の原因疾患</p> <p>【コアカリキュラム】 B 社会と歯学 B-2 健康と社会、環境 B-2-2) 保健・医療・福祉制度 *③介護保険制度を説明できる。 *⑤高齢者のおかれた社会環境を説明できる。 E 臨床歯学教育 E-4 歯科医療の展開 E-4-3) 高齢者の歯科治療 *③高齢者に多くみられる疾患を説明できる。 *⑥高齢者の歯科治療時の全身管理を説明できる。 *⑧要介護高齢者(在宅要介護者も含む)の歯科治療時の注意点を説明できる。 E-4-6) 歯科医師に必要な医学的知識 *①代表的な医科疾患(内科的疾患)を説明できる。 *②主要な医科疾患の症候を説明できる。</p>	梅澤 幸司
2017/05/08 (月) 1時限 09:00～10:30	障害と外表奇形	<p>【授業の一般目標】 顎顔面領域に形態・機能異常を伴いやすい障害者(特に症候群)に対応するための専門的知識を修得する。</p> <p>【行動目標 (SBOs)】 1. 先天異常と先天奇形について説明できる。 2. 顎顔面領域における形態・機能異常と外表奇形について説明できる。 3. 障害者歯科医療の場で遭遇することの多い症候群について説明できる。</p> <p>【準備学修項目と準備学修時間】 ・準備学修項目: 口腔・顎・顔面の正常発達を説明できる。 2年次における組織・発生学の授業における顎顔面領域に関する項目ならびにスペシャルニーズデンティストリー第2版(医歯薬出版)P.168-200を熟読する。 ・準備学修時間:30分</p> <p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 無し</p> <p>【学修方略 (LS)】 講義</p> <p>【場所 (教室/実習室)】 302教室</p> <p>【国家試験出題基準 (主)】 歯科医学総論 総論VI 病因、病態 1 1 歯・口腔・顎・顔面・頭蓋の病因・病態 ア 先天異常・後天異常</p> <p>【国家試験出題基準 (副)】 歯科医学各論 各論II 成長発育に関連した疾患・病態 1 歯・口腔・顎・顔面の発育を障害する先天異常 オ Treacher Collins 症候群 <下顎顔面異骨症> カ Crouzon 症候群 <頭蓋顔面異骨症> キ Apert 症候群 <尖頭合指症> セ Robin シークエンス <Pierre Robin 症候群> ヒ 猫鳴き症候群 <5p-症候群> フ その他の先天異常・遺伝性疾患 各論IV 顎・口腔領域の疾患 7 顎顔面の変形を来す疾患・病態 エ 顎顔面に異常を来す骨系統疾患・症候群</p> <p>【コアカリキュラム】 E 臨床歯学教育 E-2 口唇・口腔・頭蓋・顎顔面領域の常態と疾患</p>	野本 たかと

日付	授業項目	授業内容等	担当教員
2017/05/08 (月) 1時限 09:00～10:30	障害と外表奇形	E-2-3) 口唇・口腔・頭蓋・顎顔面領域の発生、成長・発育および加齢とその異常 *①口唇・口腔・頭蓋・顎顔面領域の発生を概説できる。 *④口唇・口腔・頭蓋・顎顔面領域の成長・発育異常(不正咬合)を説明できる。 E-2-4) 口唇・口腔・顎顔面領域の疾患 E-2-4)-(1) 先天異常および後天異常 *①口唇・口腔・頭蓋・顎顔面に症状をきたす先天性異常を説明できる。	野本 たかと
2017/05/15 (月) 1時限 09:00～10:30	障害と社会保障の概念からみた福祉と障害者歯科の基本的理念	<p>【授業の一般目標】 環境の変化に伴って多様化する障害者歯科医療の特殊性を理解するために、障害者に関する社会保障の概念からみた社会福祉政策についての知識を修得する。</p> <p>【行動目標(SBOs)】 1. 福祉におけるニーズとディマンズについて説明できる。 2. 障害者と社会保障について説明できる。 3. 医療福祉と障害者歯科の基本的理念について説明できる。 4. 障害者歯科の成り立ちと現状について説明できる。</p> <p>【準備学修項目と準備学修時間】 ・準備学修項目: 障害者に関する法律について説明できる。 スペシャルニーズデンティストリー第2版(医歯薬出版)P.9-25を熟読する。 ・準備学修時間:30分</p> <p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 無し</p> <p>【学修方略(LS)】 講義</p> <p>【場所(教室/実習室)】 302教室</p> <p>【国家試験出題基準(主)】 歯科医学総論 総論II 健康管理・増進と予防 8 障害者保健福祉 イ 障害者と社会</p> <p>【国家試験出題基準(副)】 必修の基本的事項 2 社会と歯科医療 ア 患者・障害者のもつ心理・社会的問題 g ニーズとディマンド 歯科医学総論 総論I 保健医療論 2 保健・医療・福祉・介護関係法規 ウ 医療保障・社会福祉・介護保険関連法規 3 保健・医療・福祉・介護の仕組みと資源 ウ 福祉施設 6 社会保障と医療経済 ア 社会保障制度 総論II 健康管理・増進と予防 8 障害者保健福祉 イ 障害者と社会 ウ 障害者の保健と医療・福祉</p> <p>【コアカリキュラム】 A 基本事項 A-3 歯科医師の責務 *②個人的、社会的背景等が異なる患者に、わけへだてなく対応できる。 B 社会と歯学 B-2 健康と社会、環境 B-2-2) 保健・医療・福祉制度 *④社会福祉制度を説明できる。</p>	伊藤 政之
2017/05/22 (月) 1時限 09:00～10:30	障害者歯科医療提供の導入	<p>【授業の一般目標】 適切な障害者歯科医療を提供する際に基本となる導入の重要性を理解するために、患者評価の意義とその方法についての基本的知識を修得する。</p> <p>【行動目標(SBOs)】 1. 障害と身体発達について説明できる。 2. 初診時における情報収集について説明できる。 3. 発達レベルの把握に必要な検査について説明できる。 4. コミュニケーション法について説明できる。</p> <p>【準備学修項目と準備学修時間】 ・準備学修項目: 正常な小児の行動発達の特徴を説明できる。 スペシャルニーズデンティストリー第2版(医歯薬出版)P.9-12, 31-33, 208-219, 277-279を熟読する。 ・準備学修時間:30分</p> <p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 無し</p> <p>【学修方略(LS)】 講義</p> <p>【場所(教室/実習室)】 302教室</p> <p>【国家試験出題基準(主)】 歯科医学総論 総論V 発生、成長、発達、加齢</p>	田中 陽子

日付	授業項目	授業内容等	担当教員
2017/05/22 (月) 1時限 09:00～10:30	障害者歯科医療提供の導入	<p>1 人体の発生・成長・発達・加齢 キ 成長・発達の評価</p> <p>【国家試験出題基準（副）】 必修の基本的事項 7 人体の発生・成長・発達・加齢 ア 人体の成長発育 a 発育区分（出生前期、新生児期、乳児期、幼児期、学童期、思春期） b 発育期の特徴 c 成長発育・発達の特徴（身体成長、原始反射、運動の発達、社会性の発達、言語の発達、情動の発達） e 身体成長と精神発達の評価法（K a u p指数、R o h r e r指数、B M I、歴年齢、生理学的年齢、発達スクリーニング検査） 8 医療面接 ア 意義、目的 a 医療情報の収集・提供 イ 面接のマナー d コミュニケーションの進め方（質問法、傾聴の仕方、非言語的コミュニケーション） 10 診察の基本 オ 全身の診察 a 全身の外観（体型、栄養、姿勢、歩行、発声） b 意識状態、精神状態 c バイタルサイン（呼吸、脈拍、血圧、体温） ケ 心理・社会的側面についての配慮 b 家族背景</p> <p>【コアカリキュラム】 E 臨床歯学教育 E-4 歯科医療の展開 E-4-6) 歯科医師に必要な医学的知識 *③主要な身体診察を説明できる。 A 基本事項 A-7 対人関係能力 A-7-1) コミュニケーション *①コミュニケーションの目的と技法（言語的と非言語的）を説明できる。【患者本人、保護者および介護者への説明を含む。】 *②信頼関係を確立するためのコミュニケーションの条件を説明できる。 *③コミュニケーションを通じて良好な人間関係を築くことができる。 A-7-2) 医療面接 ③患者の身体的・精神的・社会的苦痛に配慮し、問題点を抽出、整理できる。 *⑥必要に応じて、他の医療機関への適切な紹介を行うための手続きを説明できる。 E 臨床歯学教育 E-1 診療の基本 E-1-1) 基本的診療技能 ⑬必要に応じて医科に対診できる。 ⑰患者に関する医療情報を他の機関に提供し、また、求めることができる。 *⑧的確な病歴聴取（現病歴、既往歴、家族歴、薬歴等）を行い、必要な部分を抽出できる。 *⑩診療室における患者の心理と行動を理解し配慮できる。</p>	田中 陽子
2017/05/29 (月) 1時限 09:00～10:30	平常試験 1 解説	<p>【授業の一般目標】 平常試験 1 までに行われた授業内容を理解し、知識を修得できているか確認し自己評価が出来る。</p> <p>【行動目標（SBOs）】 1. 障害の概念と障害者の置かれた社会環境について説明できる。 2. 障害者と社会福祉について説明できる。 3. 障害の原因疾患について概念と病態について説明できる。 4. 主な障害の具体的な概要と口腔の特徴について説明できる 5. 障害者歯科の特殊性について説明できる。</p> <p>【準備学修項目と準備学修時間】 準備学修項目： 平常試験 1 までの講義内容を理解出来る。 準備学修時間：270分</p> <p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 無し</p> <p>【学修方略（LS）】 講義</p> <p>【場所（教室/実習室）】 302教室</p> <p>【国家試験出題基準（主）】</p> <p>【国家試験出題基準（副）】</p> <p>【コアカリキュラム】</p>	野本 政之 伊藤 眞美 遠藤 幸司 梅澤 陽子 田中
2017/06/05 (月) 1時限 09:00～10:30	障害者における心理発達と行動特性	<p>【授業の一般目標】 障害者における行動特性を理解するために、その背景にある心理学的手法についての基本的知識を修得する。</p> <p>【行動目標（SBOs）】 1. 心理発達について説明できる。 2. 障害者の心理発達と障害受容の関係について説明できる。 3. 歯科医療に関わる障害者の心理特性と行動特性について説明できる。</p> <p>【準備学修項目と準備学修時間】 準備学修項目： 正常な行動発達について理解し、表出される行動を評価する方法について説</p>	田中 陽子

日付	授業項目	授業内容等	担当教員
2017/06/05 (月) 1時限 09:00～10:30	障害者における心理発達と行動特性	<p>明できる。 スペシャルニーズデンティストリー第2版 (医歯薬出版) P. 2-16, 34-37, 228, 232を熟読すること 準備学修時間：30分</p> <p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 無し</p> <p>【学修方略 (L S)】 講義</p> <p>【場所 (教室/実習室)】 302教室</p> <p>【国家試験出題基準 (主)】 歯科医学総論 総論V 発生、成長、発達、加齢 2 機能の発達 エ 情緒・社会性</p> <p>【国家試験出題基準 (副)】 歯科医学総論 総論V 発生、成長、発達、加齢 2 機能の発達 ア 運動・感覚機能 イ 認知機能 ウ 言語機能 総論VII 主要症候 1 全身的症候 キ 心理、精神機能 必修の基本的事項 10 診察の基本 ケ 心理・社会的側面についての配慮 a 患者の心理・社会的側面・性格の把握 b 家族背景</p> <p>【コアカリキュラム】 E 臨床歯学教育 E-4 歯科医療の展開 E-4-4) 障害者の歯科治療 *①障害者の身体的、精神的および心理的特徴を説明できる。 ⑤障害者に対する基本的な対応ができる。 E-4-6) 歯科医師に必要な医学的知識 *③主要な身体診察を説明できる。 E-4-4) 障害者の歯科治療 ⑤障害者に対する基本的な対応ができる。</p>	田中 陽子
2017/06/12 (月) 1時限 09:00～10:30	歯科治療時における行動調整	<p>【授業の一般目標】 障害者への適切な歯科医療提供の基本である行動調整法を理解するために、その基礎となる理論についての基本的知識ならびに実際の診療場面での方法についての知識を修得する。</p> <p>【行動目標 (SBOs)】 1. 行動調整法の基礎となる理論の存在について説明できる。 2. 行動調整法の基礎となる理論とその心理学的手法について説明できる。 3. 行動調整法の基礎となる理論の成り立ちと発展について説明できる。 4. 薬物を用いない行動調整法について説明できる。 5. 薬物を用いた行動調整法について説明できる。</p> <p>【準備学修項目と準備学修時間】 準備学修項目： 障害と心理特性について説明できる。 スペシャルニーズデンティストリー第2版 (医歯薬出版) P. 208-244を熟読する。 準備学修時間：30分</p> <p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 無し</p> <p>【学修方略 (L S)】 講義</p> <p>【場所 (教室/実習室)】 302教室</p> <p>【国家試験出題基準 (主)】 必修の基本的事項 3 予防と健康管理・増進 ア 健康増進と疾病予防 f 行動レベル、行動変容</p> <p>【国家試験出題基準 (副)】 必修の基本的事項 15 治療の基礎・基本手技 ウ 治療の適応・選択 a 適応 16 チーム歯科医療 ア 医療機関でのチームワーク b 歯科医師・歯科衛生士・歯科技工士間 歯科医学総論 総論X 治療 2 治療の基礎 コ 障害者の治療</p> <p>【コアカリキュラム】 E 臨床歯学教育</p>	伊藤 政之

日付	授業項目	授業内容等	担当教員
2017/06/12 (月) 1時限 09:00～10:30	歯科治療時における行動調整	E-4 歯科医療の展開 E-4-4) 障害者の歯科治療 *①障害者の身体的、精神的および心理的特徴を説明できる。 *②障害者の行動調整(行動管理)と歯科治療に必要な注意点を説明できる。 ⑤障害者に対する基本的な対応ができる。	伊藤 政之
2017/06/19 (月) 1時限 09:00～10:30	障害者の歯科治療と医療安全	<p>【授業の一般目標】 安全で質の高い歯科医療提供するために、具体的な歯科治療における配慮と治療計画、治療法についての知識を修得する。 誤飲、窒息、誤嚥性肺炎など生命に関わる医療事故の起こりやすい状況であることを認識し、その予防策と対応法についての知識を修得する。</p> <p>【行動目標(SBOs)】 1. 歯科治療における配慮の必要性について説明できる。 2. 障害者における口腔疾患に対する治療計画ならびに治療法について説明できる。 3. 障害者の歯科治療場面で発生しやすい医療事故について説明できる。 4. 呼吸器疾患、免疫異常、姿勢の異常など患者側の環境と医療事故の関係性について説明できる。 5. 医療事故の予防策と対応法について説明できる。 6. 障害者への歯科治療の提供と感染防御策の重要性の関係について説明できる。</p> <p>【準備学修項目と準備学修時間】 ・準備学修項目： 健全者における歯科治療上の配慮について説明できる。 スペシャルニーズデンティストリー第2版(医歯薬出版)P. 277-326を熟読する。 ・準備学修時間：30分</p> <p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 無し</p> <p>【学修方略(LS)】 講義</p> <p>【場所(教室/実習室)】 302教室</p> <p>【国家試験出題基準(主)】 必修の基本的事項 4 歯科医療の質と安全の確保 イ 医療事故の防止 e 医療危機管理 <リスクマネージメント></p> <p>【国家試験出題基準(副)】 必修の基本的事項 4 歯科医療の質と安全の確保 イ 医療事故の防止 b 医療事故の発生要因 c 患者の安全管理(誤飲、誤嚥、誤薬、出血、外傷、感染、被曝、目の保護) d 医療者の安全管理(感染、針刺し事故、外傷、被曝、目の保護) 10 診察の基本 ア 診察のあり方 a 安全と感染への配慮 エ 口腔診察用器材の準備と選択 15 治療の基礎・基本手技 ウ 治療の適応・選択 a 適応 16 チーム歯科医療 ア 医療機関でのチームワーク b 歯科医師・歯科衛生士・歯科技工士間 歯科医学総論 総論X 治療 1 治療計画 ア 治療計画の立案 イ 治療計画を左右する因子 2 治療の基礎 コ 障害者の治療</p> <p>【コアカリキュラム】 A 基本事項 A-3 歯科医師の責務 *②個人的、社会的背景等が異なる患者に、わけへだてなく対応できる。 *③患者の価値観が多様であることを認識し、柔軟に対応できる。 A-5 歯科医療における安全性への配慮と危機管理 A-5-1) 安全性の確保 *⑧医療関連感染症の原因および回避する方法を概説できる。 A-5-2) 医療上の事故等への対処と予防 *②医療上の事故等(インシデント(ヒヤリハット)、医療過誤等を含む)の事例の原因を分析し、防止対策を説明できる。 E 臨床歯学教育 E-4 歯科医療の展開 E-4-4) 障害者の歯科治療 ⑤障害者に対する基本的な対応ができる。</p>	田中 陽子
2017/06/26 (月) 1時限 09:00～10:30	障害者への健康支援 一口腔管理一	<p>【授業の一般目標】 口腔および全身疾患の発症リスクが高い障害者における口腔管理の重要性を理解するために、口腔疾患予防の方法と工夫についての知識を修得する。</p> <p>【行動目標(SBOs)】 1. 口腔疾患と全身疾患の関連性について説明できる。 2. 障害者における口腔疾患予防の重要性について説明できる。 3. 障害者における口腔疾患予防のための具体的な手法について説明できる。</p> <p>【準備学修項目と準備学修時間】 準備学修項目：</p>	遠藤 眞美

日付	授業項目	授業内容等	担当教員
2017/06/26 (月) 1時限 09:00～10:30	障害者への健康支援 ー口腔管理ー	<p>口腔機能について説明できる。 口腔機能と全身機能の関係性について説明できる。 口腔のセルフケアを説明できる。 スペシャルニーズデンティストリー第2版（医歯薬出版）P. 245-276を熟読する。 準備学修時間30分</p> <p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 無し</p> <p>【学修方略（LS）】 講義</p> <p>【場所（教室/実習室）】 302教室</p> <p>【国家試験出題基準（主）】 歯科医学各論 各論Ⅰ 歯科疾患の予防・管理 6 保健指導 カ ライフステージと口腔機能育成・増進指導</p> <p>【国家試験出題基準（副）】 必修の基本的事項 3 予防と健康管理・増進 コ 口腔のケア a 口腔衛生管理のための口腔ケア b 口腔機能維持向上のための口腔のケア 16 チーム歯科医療 イ 地域医療でのチームワーク c 保健・医療・福祉・介護・教育の連携 d 家族との連携 オ 社会生活 f 自立 歯科医学各論 各論Ⅴ 歯質・歯・顎顔面欠損による障害とその他の口腔・顎・顔面の機能障害 10 管理 イ ホームケア、プロフェッショナルケア ク 栄養指導 歯科医学総論 総論Ⅰ 保健医療論 4 地域保健、地域医療 ウ ヘルスプロモーション エ 地域保健活動の進め方 総論Ⅱ 健康管理・増進と予防 1 健康の保持・増進と予防 オ 口腔の環境・機能</p> <p>【コアカリキュラム】 B 社会と歯学 B-3 予防と健康管理 B-3-2) 口腔疾患の予防と健康管理 *③ライフステージにおける予防を説明できる。 *④集団レベルの予防と健康管理（地域歯科保健、学校歯科保健、産業歯科保健）を説明できる。 *⑤口腔ケアの意義と効果を説明できる。 E 臨床歯学教育 E-4 歯科医療の展開 E-4-4) 障害者の歯科治療 ④障害者における口腔ケア処置について説明できる。</p>	遠藤 眞美
2017/07/03 (月) 1時限 09:00～10:30	摂食嚥下機能障害のリハビリテーション その1	<p>【授業の一般目標】 摂食嚥下障害の理解のために、正常な摂食嚥下機能の知識について習得する。</p> <p>【行動目標（SBOs）】 1. 食べることの意義を説明できる。 2. 哺乳動作を説明できる。 3. 摂食嚥下機能の発達とその獲得順序・段階を説明できる 4. 摂食嚥下動作時の各器官の役割りを説明できる。</p> <p>【準備学修項目と準備学修時間】 ・準備学修項目： 心身機能の正常な成長・発達について説明できる。 正常な口腔機能について説明できる。 2年次解剖学、組織・発生学における顎顔面領域の授業内容 スペシャルニーズデンティストリー第2版（医歯薬出版）P. 127-146を熟読する。 ・準備学修時間：30分</p> <p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 無し</p> <p>【学修方略（LS）】 講義</p> <p>【場所（教室/実習室）】 302教室</p> <p>【国家試験出題基準（主）】 歯科医学総論 総論Ⅹ 治療 7 リハビリテーション イ 摂食・嚥下障害のリハビリテーション</p> <p>【国家試験出題基準（副）】</p>	三田村 佐智代

日付	授業項目	授業内容等	担当教員
2017/07/03 (月) 1時限 09:00～10:30	摂食嚥下機能障害 のリハビリテーシ ョン その1	<p>必修の基本的事項 3 予防と健康管理・増進 コ 口腔のケア b 口腔機能維持向上のための口腔のケア 1 5 治療の基礎・基本手技 へ 口腔機能のリハビリテーション a 機能の回復 <咀嚼機能、摂食・嚥下機能、構音機能> b 口腔機能管理</p> <p>歯科医学総論 総論V 発生、成長、発達、加齢 5 口腔・顎の機能の発達 ア 咀嚼 イ 嚥下</p> <p>総論IV 歯・口腔・顎・顔面の正常構造と機能 3 口腔・顎・顔面・頭頸部の機能 ア 下顎位、下顎運動 エ 吸啜 オ 咀嚼 カ 嚥下</p> <p>【コアカリキュラム】 B 社会と歯学 B-1 健康の概念 *②口腔と全身の健康との関連を説明できる。 E 臨床歯学教育 E-2 口唇・口腔・頭蓋・顎顔面領域の常態と疾患 E-2-4) 口唇・口腔・顎顔面領域の疾患 E-2-4) - (10) 口唇・口腔・顎顔面領域の機能障害 *②嚥下障害を概説できる。 C 生命科学 C-2 人体の構造と機能 C-2-4) 人体諸器官の成長、発育と加齢変化 *①人体諸器官の形態と機能の成長、発育および加齢に伴う変化を説明できる。 E 臨床歯学教育 E-1 診療の基本 E-1-1) 基本的診療技能 ⑫基本的診察および検査結果よりの確かな診断と治療方針を立案し説明できる。</p>	三田村 佐智代
2017/07/10 (月) 1時限 09:00～10:30	摂食嚥下機能障害 のリハビリテーシ ョン その2	<p>【授業の一般目標】 摂食嚥下障害の病態と全身疾患との関連を理解し、リハビリテーションに必要な知識を習得する。</p> <p>【行動目標 (SBOs)】 1. 発達期の障害にみられる摂食嚥下障害の病態とその原因について説明できる。 2. 発達期の障害者に対する摂食嚥下リハビリテーションを説明できる。 3. ライフステージにおける摂食嚥下障害について説明できる。 4. 中途障害および高齢障害者に対する摂食嚥下リハビリテーションを説明できる。 5. 摂食嚥下障害に起因する全身疾患について説明できる。 6. サルコペニア、フレイル、ロコモティブシンドロームと口腔機能の関連性について説明できる。 7. 栄養管理について説明できる。</p> <p>【準備学修項目と準備学修時間】 ・準備学修項目： 正常な摂食嚥下機能について説明できる。 スペシャルニーズデンティストリー第2版 (医歯薬出版) P.127-146を熟読する。 ・準備学修時間：30分</p> <p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 無し</p> <p>【学修方略 (LS)】 講義</p> <p>【場所 (教室/実習室)】 302教室</p> <p>【国家試験出題基準 (主)】 必修の基本的事項 1 4 主要な疾患と障害の病因・病態 イ 歯・口腔・顎・顔面の疾患の概念 s 摂食・嚥下障害</p> <p>【国家試験出題基準 (副)】 歯科医学総論 総論X 治療 7 リハビリテーション イ 摂食・嚥下障害のリハビリテーション キ 多職種連携 歯科医学各論 各論VI 高齢者の歯科診療 1 6 摂食・嚥下障害 イ 摂食・嚥下障害の対応 b 間接訓練 c 直接訓練、段階的摂食訓練 e 歯科的アプローチ 歯科医学総論 総論X 治療 7 リハビリテーション カ 栄養サポートチーム <NST> 歯科医学各論 各論VI 高齢者の歯科診療 1 5 摂食・嚥下機能 イ 摂食・嚥下障害の病因・病態</p>	三田村 佐智代

日付	授業項目	授業内容等	担当教員
2017/07/10 (月) 1時限 09:00～10:30	摂食嚥下機能障害の リハビリテーション その2	ウ 摂食・嚥下障害の評価・検査 1 7 高齢者の栄養管理 ア 栄養状態の評価 ウ 食形態の管理 【コアカリキュラム】 E 臨床歯学教育 E-4 歯科医療の展開 E-4-3) 高齢者の歯科治療 *⑤口腔機能向上による介護予防について説明できる。 *⑩摂食・嚥下障害の診察、検査、診断を説明できる。 *⑪摂食・嚥下リハビリテーションを説明できる。 *⑫老化に伴う口腔諸組織の構造と機能の変化を説明できる。	三田村 佐智代
2017/07/24 (月) 1時限 09:00～10:30	障害者のための地域 歯科医療システム	【授業の一般目標】 地域包括ケアシステムにおける歯科医師としての重要性を理解するために、地域連携に必要な基本的知識を修得する。 【行動目標 (SBOs)】 1. 地域医療の重要性について説明できる。 2. 介護保険サービス、社会福祉サービス、医療保険の関係性について説明できる。 3. 障害者歯科医療に携わる医療機関について説明できる。 4. 地域医療連携における歯科の役割について説明できる。 5. チーム診療について説明できる。 6. 訪問歯科診療について説明できる。 7. 周術期の患者に対する医療連携と歯科の役割について説明できる。 【準備学修項目と準備学修時間】 ・準備学修項目： 日本における医療制度について説明できる。 障害者の地域社会における共生について説明できる。 スペシャルニーズデンティストリー第2版 (医歯薬出版) P.26-37を熟読する。 ・準備学修時間：30分 【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 無し 【学修方略 (LS)】 講義 【場所 (教室/実習室)】 302教室 【国家試験出題基準 (主)】 必修の基本的事項 3 予防と健康管理・増進 イ 地域保健 a 地域保健法、地域保健体制 【国家試験出題基準 (副)】 必修の基本的事項 1 6 チーム歯科医療 イ 地域医療でのチームワーク a 病診連携 b 診診連携 c 保健・医療・福祉・介護・教育の連携 d 家族との連携 e 地域連携クリニカルパス 歯科医学総論 総論 I 保健医療論 3 保健・医療・福祉・介護の仕組みと資源 エ 介護施設 キ 医療連携、チーム医療 4 地域保健、地域医療 コ 在宅医療、在宅歯科医療 必修の基本的事項 1 6 チーム歯科医療 ア 医療機関でのチームワーク a 歯科医師・医師間 歯科医学各論 各論 VI 高齢者の歯科診療 1 3 管理に留意すべき全身疾患 イ 悪性新生物 【コアカリキュラム】 B 社会と歯学 B-2 健康と社会、環境 B-2-2) 保健・医療・福祉制度 *⑧地域医療に求められる役割と機能および体制等、地域医療の在り方を概説できる。 *⑨地域における保健・医療・福祉・介護の分野間の連携および他職種間の連携の必要性について説明できる。 B-3 予防と健康管理 B-3-2) 口腔疾患の予防と健康管理 *④集団レベルの予防と健康管理 (地域歯科保健、学校歯科保健、産業歯科保健)を説明できる。 E 臨床歯学教育 E-4 歯科医療の展開 E-4-3) 高齢者の歯科治療 *⑤口腔機能向上による介護予防について説明できる。 *⑥高齢者の歯科治療時の全身管理を説明できる。 *⑧要介護高齢者 (在宅要介護者も含む)の歯科治療時の注意点を説明できる。 *⑨歯科訪問診療について説明できる。	梅澤 幸司
2017/09/04 (月)	平常試験 2	【授業の一般目標】	田中 陽子

日付	授業項目	授業内容等	担当教員
1時限 09:00～10:30	解説	<p>平常試験 1 以降の講義内容が習得されたかを自己評価をすることができる。</p> <p>【行動目標 (SBOs)】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 障害者における心理発達と行動特性について説明できる。 2. 歯科治療時における行動調整 3. 障害者の歯科治療と医療安全について説明できる。 4. 障害者における口腔管理の重要性と具体的手法について説明できる。 5. 摂食・嚥下リハビリテーションについて述べられる。 6. 障害者歯科における地域医療連携システムについて説明できる。 <p>【準備学修項目と準備学修時間】 平常試験 1 以降の講義内容について理解できる。</p> <p>【学修方略 (LS)】 講義</p> <p>【場所 (教室/実習室)】 302 教室</p> <p>【国家試験出題基準 (主)】</p> <p>【国家試験出題基準 (副)】</p> <p>【コアカリキュラム】</p>	<p>伊藤 政之 遠藤 真美 三田村 佐智代 梅澤 幸司</p>